

シンポジウム
Symposium

第5回 日中生物触媒技術シンポジウム

天野エンザイムは、中国浙江大学との共催で「日中生物触媒技術シンポジウム」を隔年で開催しています。本シンポジウムは、酵素を利用したサステナブルな工業プロセスに興味のある中国企業と、同分野で最先端の研究をしている日中の大学あるいは公共研究機関の先生方を結びつけ、同分野の発展に貢献することを目的としています。

2024年11月16日、第5回（10周年）の記念大会となる本シンポジウムを浙江省杭州市で開催しました。COVID-19の影響もあり3大会ぶりの完全対面形式での開催となり、約130名の企業、アカデミア関係者に参加いただきました。日本から招待した清水浩（大阪大学）、小林達彦（筑波大学）両教授を含む、日中合わせて計11名の講演（下表）が行われました。講演内容は多岐にわたり、AI技術を用いた酵素の機能改変や実用化に向けた検討結果などが紹介され、活発な議論が繰り上げられました。また10周年を記念した座談会も企画され、日中の企業およびアカデ

ミアの各立場から、近年の酵素使用プロセスに関する動向や今後の展望などが熱く語られました。

持続型社会の実現には、酵素によるGreen Chemistryは欠かせない技術です。日本の酵素メーカーとして、引き続き本分野の発展に貢献できるように尽力してまいります。



来賓集合写真



座談会の様子

会場の雰囲気

発表演題

清水浩	大阪大学	代謝経路のIn silicoデザインと実験的解析による微生物物質生産の高度化
呉起	浙江大学	指向進化による酵素の立体選択性制御およびその精密合成への応用
小林達彦	筑波大学	微生物の酵素と代謝：伝統的バイオ研究

記念大会特別企画 - 生物触媒及びバイオトランスフォーメーション10年間の発展レビューと今後の展望

吉田和典	天野エンザイム	産業用酵素開発へのマイクロドロプレット技術の応用
呉静	江南大学	酵素触媒の混雑性に基づく新機能コンポーネントの創製
叢志奇	中国科学院	触媒用途のための非天然型P450ペルオキシダーゼの合理的デザイン
王雅婕	西湖大学	AI-BT-Chemの1C活用への貢献
陳輝	山東大学	電気エネルギーによる無活性化学物質のバイオ変換
穆曉清	江南大学	立体障害を介した α -アミノ酸脱水素酵素基質認識機構の解析及び分子改造
羅会穎	中国農業科学院	酵素生産におけるグリーン・イノベーション
朱之光	中国科学院	合成生物学と電気化学の融合によるバイオ電気触媒システムの構築